

## 中央大学国際経営学部 見学調査報告書

調査テーマ	JICA 職員の経験談から考えよう
調査日	2020年11月18日(水)15:30~17:40
調査先	独立行政法人 国際協力機構(JICA) 東京
担当教員身分・氏名	教授 山田恭稔
授業科目/学部企画名	訪問調査(「企業・機関訪問」)
参加学生数(学年)	28名(1年生)、同行 CVS 5名(2年生)、計33名
調査趣旨・目的	国際協力という仕事に関して知り、JICA 職員の経験談を聞くことなどを通し理解を深め、そのキャリア・パスに対する意識や可能性を考える。
調査結果	<p>2回に及んだ事前勉強会を通して、国際協力ならびに JICA に関する概要の把握、グループワークによる自らの関心事についての明確化を行なった。これらを経た上で、1年生28名の一行は、同行ボランティア2年生5名などと共に、11月18日に JICA 東京を訪問し、下述する4名の講師から講演をうかがった。</p> <p>まず、田中泉所長からは、JICA および JICA 東京の事業概要を持続可能な開発目標(SDGs)との関連も含めてうかがうと共に、ご自身のシリア、イラン、パレスチナでの在外勤務経験とも引き寄せて、「平和構築」というテーマにもつながる国際協力や「人間の安全保障」についてもご説明をいただいた。</p> <p>次に、市民参加協力第一課の高田宏仁長からは、我が国の憲法、開発協力大綱、援助の考え方などの背景も押さえながら、JICA と市民参加協力についてご説明いただき、市民参加協力の取り組みとして、地域/自治体との連携、教育現場へのアプローチの強化、SDGs の主流化などが図られている旨をうかがった。</p> <p>そして、リモートで講演いただいた同課の森田晃世職員からは、国際協力を仕事にした動機、JICA 業務を通して得たこと、国際協力という仕事のキャリアを積み続けることなど、キャリア形成に関連するお話をご経験を中心にうかがった。上述した3名の講師からは、国際協力という仕事は非常に多岐に亘るので、自分がしっかりと意識し準備していれば、JICA での業務を通じて自分が関心を持つテーマを深め続けられることがわかった。</p> <p>最後に、JICA 研修員のロンポ・ミイエンバ氏からは、日本から遠く離れた、西アフリカのご出身国ブルキナファソの産業や文化についてご紹介いただいた。日本とは大きく異なるお国事情とお国柄のお話をうかがって、世界の大きさ、ならびに JICA が協力対象とする国々の多様さを改めて認識できた。</p> <p>なお、あいにくなことに、訪問時は館内の大規模空調工事に当たってしまい、様々なハプニングも生じた。これは、途上国の社会や人々を相手に国際協力業務を進める際に、物事がスムーズに進むことがむしろ稀であることを象徴しているようでもあった。しかし、そのような状況下でも、真摯にかつ懸命に対応し、最大</p>

の成果を出そうと奮闘する職員さんたちの姿があった。この姿にも、JICA の国際協力業務に日頃携わる方々の姿勢を垣間見ることができたように感じた。



田中所長によるパレスチナ平和構築協力の説明を熱心に聞く学生たち



キャリア形成に関する森田職員の経験談を集中して聞く学生たち



ブルキナファソの食文化を紹介するロンポ氏



全員マスク着用での記念撮影